

2017 年度研究総会 プログラム

国連・子ども（児童）の権利条約がグローバルスタンダードになっている今日、子どもの問題を子どもの権利の視点で捉え解決していこうとすることはいまや国際的な潮流であり、要請であるといえます。それは、2016年に改正された児童福祉法が、すべての子どもは条約の精神にのっとり福祉を等しく保障される権利を有すると規定し、児童福祉の理念に条約の精神や規定を位置づけたことなど、国内的にもいえます。

しかし、子どもの権利を抽象的に論じて、あるいは主張しても問題が解決するわけではありません。また、子どもの権利についてはさまざまな捉え方があります。

このようななかで、改めて学校や施設をはじめ「子どもの現場」の現状を知り、そこでの取り組みから学び、現場に研究の成果等を返していくことが必要になっています。もちろん、子どもの現場といっても、多様ですし、子ども自身が活動している NPO・NGO 等もあります。

今回は、子どもの現場を担っている方々から、その現場では子どもの権利の現実はどうなっているのか、子どもの権利はどのように捉えられているのか、その現場で子どもの権利を保障するためにどのような取り組みをしているのか（担い手の権利保障も含めて）などについて報告してもらい、子どもの権利の視点・手法によって問題解決や取り組みがどう進展するのかなどについて検討したいと考えています。いうまでもありませんが、このシンポジウムは、「べき論」を展開するためでも、一つの結論に導くためのものではありません。みなさんとともに、情報と意見を交換し、検討し合う場です。

1 日目【5 月 20 日（土）】12 時 30 分会場 早稲田大学文学学術院 33 号館 3 階第 1 会議室

* 13 時～17 時 30 分

公開シンポジウム「子どもの現場から考える子どもの権利」

○開会あいさつ・基調報告：子どもの現場から考える子どもの権利

荒牧 重人（子どもの権利条約総合研究所代表）

○報告：学校現場と子どもの権利

（題は仮） 八田 裕子（滋賀県中学校教員）

スクールソーシャルワーカーの取り組みと子どもの権利

穂苅 幸（東京都北区スクールソーシャルワーカー総括指導員）

施設における子どもの権利

上野 陽弘（児童心理治療施設「嵐山学園」生活指導部主任）

少年院における子どもの権利

熊倉 ひろみ（法務教官）

医療と子どもの権利

田中 恭子（国立成育医療研究センター 小児科専門医）

○質疑 討論 まとめ

コーディネーター：野村 武司（東京経済大学） 内田 塔子（東洋大学）

* 18 時～19 時 30 分 懇親会 早稲田大学文学学術院（戸山キャンパス）33 号館 16 階第 10 会議室

* 会費：3000 円

* 10 時～12 時 30 分 研究報告（午前の部）

コーディネーター：加藤 悦雄（大妻女子大学）

- 1 五十嵐 裕子（浦和大学）
京都の昼間保育制度が乳児保育の実現に与える影響
- 2 中川 友生（早稲田大学・大学院生）
家庭養護における里親の体罰・しつけに関する意識
- 3 田谷 幸子（帝京平成大学）
担当制をしる児童養護施設内のくらしに対して職員のかかわりが与えた影響
ー施設経験者が語る「人生曲線」を手がかりにしてー
- 4 加藤 悦雄（大妻女子大学）
福祉ニーズに基づく支援の今日的課題と子どもの権利に基づく支援を展開する条件
ー子ども NPO による支援メカニズムを手がかりにしてー

* 13 時 30 分～16 時 研究報告（午後の部）

コーディネーター：半田 勝久（日本体育大学）

- 5 上野 陽弘（こどもの心のケアハウス 嵐山学園）
児童心理治療施設における『RSC 活動』実践研究
ースポーツ活動を通じた実践から見えてくるものー
- 6 高石 啓人（早稲田大学・大学院生）
学校福祉における子どもの権利保障の取り組み
- 7 高橋 亮平（一般社団法人生徒会活動支援協会）
18 歳選挙権時代における主権者教育としての「新しい生徒会」
- 8 塚本 智宏（東海大学札幌キャンパス）
1920 年代ポーランドとコルチャック子どもの権利の探究
ーコルチャックの発言を歴史的に跡付ける試みー